

急こう配の山林
で物資を輸送



山間部でドローン活用

SRS Connect

獣害対策資材を輸送

期間中は、1日当たり約50点、1割当たり10〜30グラムの荷物をドローンで輸送。天候不順も途中で取り止める日もあったものの、合計800回以上の飛行を行った。パイオマスパワーテクノロジーズによると、林業での頻回のドローン輸送実験は全国的にも珍しいという。

パイオマスパワーテクノロジーズは、パイオマス燃料による発電事業や森林の再生事業を手掛けている。今回のドローン輸送は、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO、資源効率化、省力化に向けて促進事業)の支援事業として、ドローンの活用が実証

SRS Connect(野田有美社長、大阪市中央区)は、10日、パイオマスパワーテクノロジーズ(北摂産林業振興CEO・盛岡経典社長、三重県松阪市)、玉木村(同村長、奈良県五條市)に協力し、獣害対策資材のドローン・小型無人機輸送の実証実験を行った。五條市の山間部で実施し、輸送にかかった時間や機体の安定性、離着陸時の安全性といったデータを収集した。(黒須寛)

れ、ドローンを専門に扱うSRS Connectが、協力することになった。今回、同社はパイオマスパワーテクノロジーズのほか、周辺エリアの山林を管理する玉木村のメンバーが集まり、協力して作業を行った。

ドローンの翼から強い風が吹くため離着陸時、砂が舞って手などの露肌が

あつたものの、玉木村のメンバーから「荷物を降ろす場合と比べ、格段に楽になる」といった声もあつた。同社によると、好意的な声があつた。今後は、パイオマスパワーテクノロジーズが、スワールテクノロジーズが、データを集計し、課題を抽出する。

野田社長は「ドローンの活用に向けて、当社にしてみても貴重な経験になった。今後は、緊急事態の際にはドローンでの輸送が期待されている。どのような状況にも対応できるよう、今後も展開していきたい」と話した。